

麻疹(はしか)発生の注意喚起

感染症発生動向調査第 15 週から、東京都や神奈川県において麻疹患者の届出が増加しています。また、東北地方太平洋沖地震における被災地では、外国人ジャーナリストの発症例もあり、今後も国内外から麻疹が持ち込まれる可能性があります。大型連休等における行楽・帰省等、また被災地での活動等、人の移動の活性化が予想されますので注意が必要です。

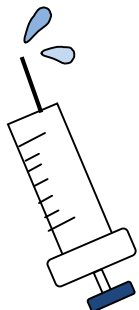
1. 麻疹とは

原因病原体	麻疹ウイルス。 全国の麻疹ウイルス分離・検出状況では、2010年12月からはD9型(フィリピン等からの輸入が疑われる)、2011年4月はD4型(イギリス・フランス・ドイツ・スイス等からの輸入が疑われる)が多く分離・検出されています。
症状	<p>ウイルス感染</p> <p>↓</p> <p>10~12日後(潜伏期)</p> <p>【カタル期】 38度前後の発熱、咳、鼻水といった症状が始まり、頬粘膜に形成されるコプリック斑が出現。</p> <p>↓</p> <p>2~3日後</p> <p>【発疹期】 39.5度以上の高熱と発疹が出現。</p> <p>↓</p> <p>3~4日後</p> <p>【回復期】 解熱、発疹も色素沈着を残して消失。</p> <p>合併症としては、肺炎や中耳炎が多くみられます。また、予後不良の脳炎となることもあります。</p>
感染経路	麻疹の感染力は非常に強く、 ○接触感染 ○飛沫感染(咳、くしゃみなどにより飛び散った唾液や鼻水などを吸い込んで感染) ○空気感染(離れた位置でも空中を漂って感染)のいずれの経路でも感染します。
感染期間	最も感染力が強いのはカタル期ですが、症状が出現する1日前(発疹出現の3~5日前)から発疹出現後4~5日目くらいまで感染力があります。学校は、学校保健安全法に基づき、解熱後3日を経過するまで出席停止となります(欠席扱いにはなりません)。
治療	特異的治療法はありません。

2. 予防

ワクチン接種による予防が有効です。下記の年齢の方は定期予防接種(無料)

の対象者です。予防接種をまだしていない方は早めに接種を受けましょう。



定期予防接種	
第1期	生後12ヶ月以上生後24ヶ月未満の方
第2期	5歳以上7歳未満の方で、小学校入学前年度の1年間。
2008年4月1日から2013年3月31日までの5年間は	
上記の対象者に加え、下記の年齢の方も接種の対象となります。	
第3期	中学1年生相当年齢の方
第4期	高校3年生相当年齢の方

3. 山口県の状況

全国の麻疹の発生報告数は2008年11,015例、2009年732例、2010年455例と減少傾向にあり、山口県でも2008年20例、2009年3例、2010年1例、2011年(第15週現在)1例と少なくなっています。わが国では、2012年までに麻疹を排除することを目標としており、山口県では確定診断のための検査を実施しています(詳細については、HPをご覧ください。URL: <http://kanpokken.pref.yamaguchi.lg.jp/jyoho/mashinn/mashinnkensa.html>)。2010年は麻疹疑いの5例中4例が、2011年(平成4月26日現在)は9例中8例が、検査結果等から麻疹ではないと判断されています。

山口県環境保健センター保健科学部 〒753-0821

山口市葵2丁目5-67 TEL (083)922-7630 FAX (083)922-7632